

古代北陸道

奈良・平安時代のころ、^{りつりょうせい}律令制がしかれ、中央と地方を結ぶ道が整備されました。そのうち現在の石川県を通る道は「古代北陸道」とよばれ、^{ほくろくどう}野々市市内では^{とくもと}徳用、^{みっかいち}三日市、^{いなり}稲荷の遺跡からその一部が見つっています。このような^{かんどう}官道は、中央と地方の伝達のための役人や、税などの物資のみが通行したとされています。



〈発掘された古代北陸道〉 三日市 A 遺跡
2本の溝の間が路面で、幅は約8mあります。



●地点で古代北陸道が発掘されています。
発掘地点を結ぶと、道がまっすぐ伸びていたことがわかります。

